

技術調査・診断部門の紹介

ウィツエル総研株式会社



ウィツェル株式会社 概要

会社名：ウィツェル株式会社

代表者：代表取締役 奥田 稔

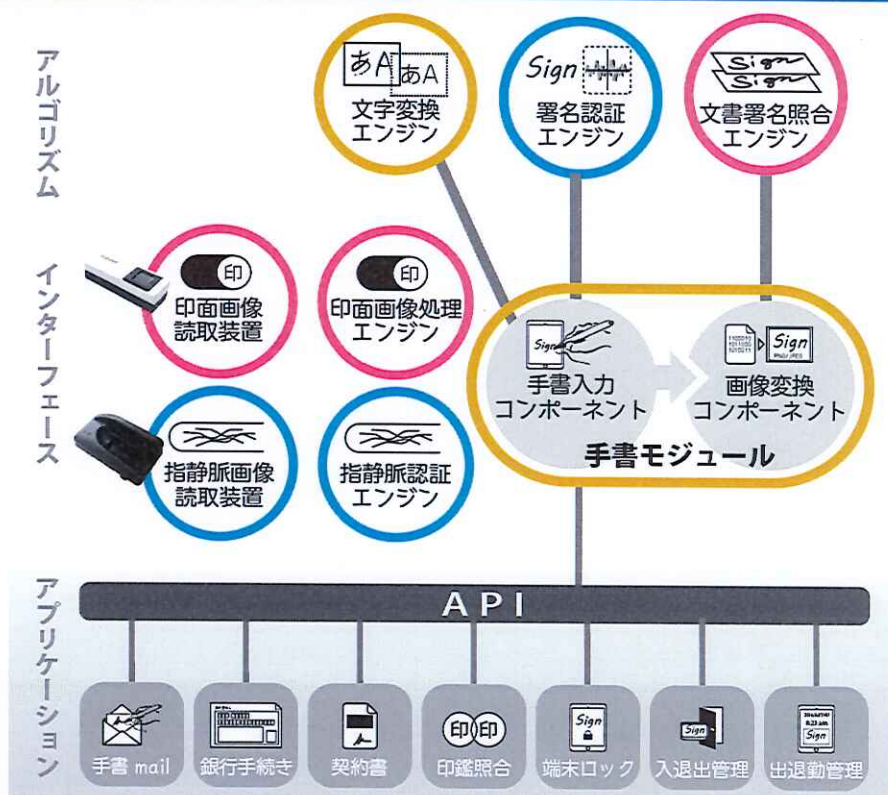
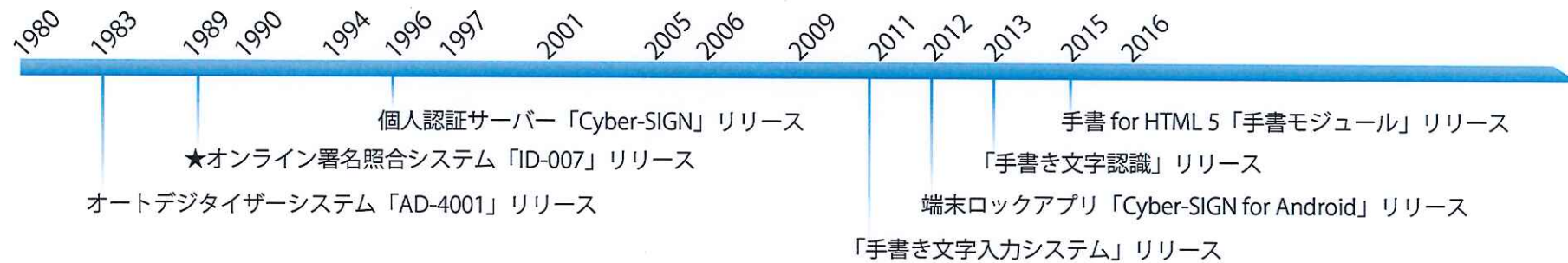
設立：2001年12月

本社：東京都千代田区飯田橋4-8-13 タカラビル

事業内容

1. 技術調査・CMF(表面処理加飾技術)調査など
2. 商品開発・業務改革コンサルティング
3. 自社ソリューション (IPM・IDP)
 - ・手書きソリューション(手書モジュール、署名認証、文字変換、署名画像照合)製品
 - ・印面画像読取装置「SigNet Scanner」

Product History



■ 調査診断部門（技術調査）

技術調査	調査の目的	内容	事例
技術力評価 工場評価	デューデリジェンス 支援	技術力評価 （独自性、コスト、競争力、 開発プロセス） 工場評価 （品質マネジメント、 SCM、現場改善）	半導体メーカー 家電メーカー
サプライヤー調査	コストダウン支援	新サプライヤー選定のために、 サプライヤー技術評価を行う	住設機器メーカー リチウムイオン バッテリーパック メーカー
新技術調査	商品開発支援	特定の技術を商品に導入のため デバイスの技術調査を行う	タッチパネル レーザー加工機
市場調査	マーケティング支 援	対象製品に関して技術視点で の市場調査を行う	電子文具 大気圧プラズマ

業務内容

初期技術調査

1. 競合/業界調査
2. 技術調査

1. 市場状況
2. 技術の素性/競争力

診断支援 (DD)

1. 改善・改革余地診断
2. 改善のポイント抽出

1. 主要部門ヒアリング
2. 工場視察
3. 主要サプライヤー視察
4. ティアダウン
5. データ分析
(売上/生産/原価等)

計画策定 (PMI)

1. 改善施策
2. 実行計画

1. 体制構築
2. 改善施策検討
3. 実行計画立案
 - 目標設定
 - マイルストーン
 - 活動内容
 - 体制
4. 進捗管理体制

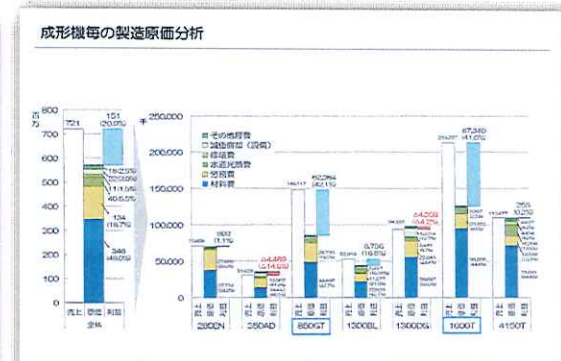
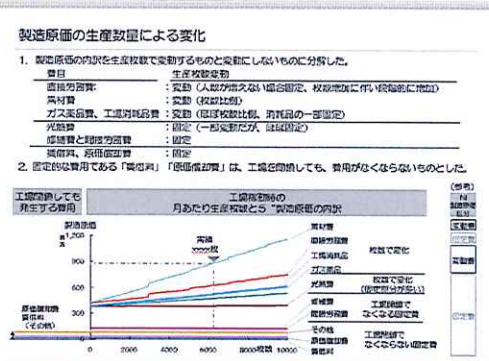
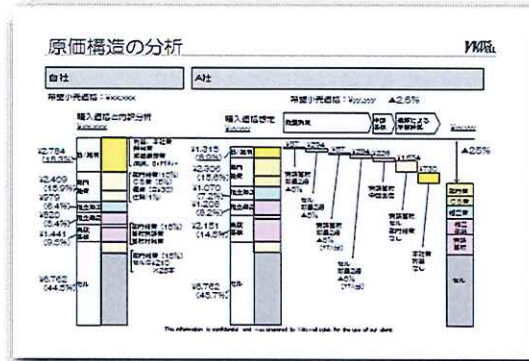
改革実行支援

1. 改善活動実行
(刈取り)

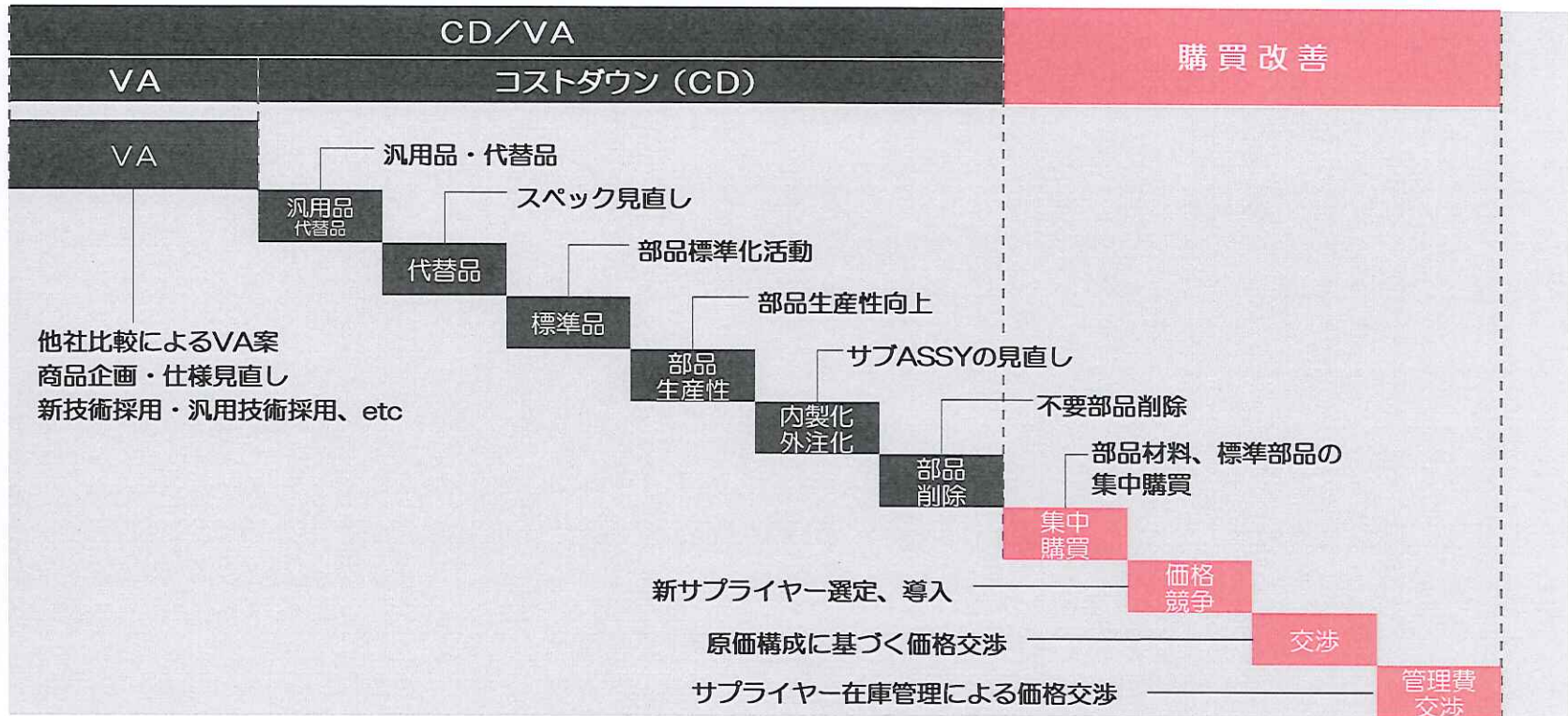
1. 進捗管理
2. 技術支援

余地診断イメージ

原価分析



余地診断

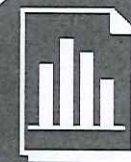


主な改革パートナー（戦略経営コンサルタント他）



- 株式会社 I T I D コンサルティング
- アクセンチュア株式会社
- アーサー・ディー・リトル・ジャパン
- アビームコンサルティング株式会社
- 株式会社コーポレートディレクション
- 独立法人 中小企業基盤整備機構
- 日本能率協会コンサルティング株式会社（JMAC）
- プライスウォーターハウスクーパース株式会社
- ベイン・アンド・カンパニー
- マッキンゼー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク
- マーサー・ヒューマンリソース・コンサルティング株式会社
- その他大手 ITベンダー/ソリューションプロバイダー

デュージェリデンス支援実績（例）



対象会社	概要
デジタル家電メーカー	技術力と工場の競争力評価分析 改善によるコスト削減余地評価
大手電機メーカーのアナログ半導体事業部門	半導体事業の商品の特徴と将来性および、 得意な技術分野の分析、競争力の分析
半導体後工程メーカー	半導体後工程業界の分析 当該事業会社の業界内のポジショニング 後工程事業における競争力・将来性の分析
フェムト秒レーザーメーカー	サーバーレーザーのフェムト秒レーザー発振器の 最先端半導体への応用の市場性を分析
半導体製造装置メーカー	ウェーハーエッジ検査装置を開発した 半導体製造装置メーカーの技術と事業性の評価
半導体製造装置	有機EL製造装置製造現場の改善余地
工場生産力 調査	<p>家電製品工場（東南アジア） 自動車部品工場（日本） 鞆縫製工場（中国） 冷凍麺工場（日本） 薬品工場（日本） バッテリーパック工場（中国）</p> <p>生産性改善余地評価 在庫削減余地評価 品質改善余地評価</p>

DD支援 主要クライアント（過去事例）



- アドバンテッジパートナーズLLC（AP）
 - インテグラル株式会社
 - SBIキャピタルソリューションズ株式会社
 - ゴールドマンサックス証券株式会社
 - ジャパン・インダストリアル・ソリューションズ株式会社（JIS）
 - 独立法人 中小企業基盤整備機構
 - ドイツ証券株式会社
 - 日本アジア投資株式会社（JAIC）
 - 日本産業パートナーズ株式会社（JIP）
 - フェニックスキャピタル株式会社
 - ベインキャピタル・アジア・LLC
 - 丸の内キャピタル株式会社
 - ユニゾンキャピタル株式会社
 - 株式会社リヴァンプ
- その他 製造業各社よりの技術調査依頼

エキスパート集団による 自由闊達にして愉快なる ものづくり工場の建設



Minoru Okuda

Profile

【学歴】早稲田大学理工学部機械工学科制御工学

【スキル】商品機構設計・実装設計・システム設計

【職歴】ソニー(株)

米国法人メイトリックスワン(株)

(現IBM)副社長

ウィッツェル(株)知泉グループ代表(現在)

商品化プロデューサー/システムエンジニア

奥田 稔 Engineer

幼い頃、家を作る職人やせんべいを焼く機械を作ったりしていた祖父とその仲間のおじさん達に囲まれて、皆と同じようにエジソンに憧れて育ち、大学では鉄腕アトムの実現を目指し二足歩行ロボットや筋電制御義足の開発に触れ、井深大に憧れてソニーに入社しました。以来、一人でテレビやビデオの全てを作るエンジニアを目指してメカを始め、成形金型、プリント基板、電子部品、半導体、ソフトウェア開発と多岐な技術部門の業務改革と実務を担当させていただきました。その間、ソニーで初めての3次元CAD導入を皮切りに、いつもシステム化(ソフト)と実務(ハード)の二足のわらじを履いて、あちこちを兼務して365日、好き放題にやりたい事をやらせて貰いましたが、古い現状をぶち壊し、休むことなく改革を進めているうちに、気がつく、その改革で無理をお願いしてきた、偏屈で素敵な専門技術者や中小企業の親父さん、現場の職人さんなどの沢山の達人に支えられ、育てられて来ていました。技術とは人なりと思う様になりました。



テクニカルキャリア

1976年 ソニー(株)

航空機向ビデオプロジェクターなどの機構設計・光学設計に従事し、ソニー初の三次元CADシステム導入、CAEシステムの開発を担当。

1992年

映像関連技術部門 企画室長を経て、コンシューマーAV開発技術部門システム企画部、情報システムセンター・技術システム部、生産技術研究所高密度実装研究部、設計技術研究部、開発戦略部全社商品開発設計改革プロジェクト等の統括部長を歴任。

ホームAV 8mmビデオ、初代VAIOノートブックPCなどの、商品化・小型軽量化と、商品化期間短縮、原価低減、品質改善、生産革新、現地設計化など商品開発基盤の育成強化において主導的役割を果たした。

1999年

米国法人メイトリックスワン(株)(現IBM)

日本法人を設立に際し、技術担当副社長として参画。本田技術研究所の技術情報管理基幹システムの構築、日産自動車(原価管理システム)、東芝などの業務改革、電子商取引、PLM導入にコンサルタントとして参画した。

2001年～

ウィッツェル(株)

新経済産業省の日本製造業再活性化プロジェクトに呼応して、ITを駆使するものづくりの育成、産学官隣診の共同による技術支援ファームの確立を目指し、会社を設立。日本とアジアの中堅・中小企業の高度なものづくり技術を世界につないで、新時代のQCD+U(ユニーク)の競争力を高めていく役割を担う。

家電、自動車、産業機器、半導体各業界の工場評価及び、原価低減PJを統括

源流から下流までの
全体最適による
トータルコストダウン

エクゼクティブコンサルタント



宮島 聡司

Engineer



Satoshi Miyajima

Profile

【学歴】東京大学工学部

【スキル】プロジェクトマネジメント

【職歴】ソニー(株)

利益の源泉は作り方の中にあり、ソニーで教わり今でも大切にしている言葉の一つです。作り方といっても製造現場だけをさすのではなく設計・資材・生産管理・品質管理・生産技術といったものづくり工程全体が、最終工程の製造現場に現れ、それがコストを決めるという意味です。

材料費の低減だけを追い求めては、在庫や品質コストなど見えないコストが積みあがってしまうことも多々あります。競争力強化のための全体最適を目的としたトータルコストダウンの活動を追求します。

テクニカルキャリア

1987年 ソニー(株)

テレビ事業本部にて製品設計
米国赴任(7年)、テレビ設計の完全現地化
標準シャーシ導入によるトータルコストダウン
3次元CADを核とした設計プロセス改革
現地サプライヤー開拓などを担当
情報システム部門 設計システム開発統括課長
オーディオ部門、テレビ部門等の設計改革を推進

2002年~ ウィットツェル(株)

ウィットツェル株式会社の立ち上げに参加。取締役
原価低減のための改革プロジェクトを牽引

- ・家電、産業用機器、自動車部品メーカーの設計改革
- ・携帯電話、産業用機器の中国サプライヤーの調達改善
- ・産業用機器の品質改善
- ・駐車場機器、光ファイバー関連機器、家電製品の原価低減
- ・半導体後工程工場の生産性改善
- ・半導体前工程工場の工程改善によるLT短縮
- ・建築金物工場の工場改革(生産性改善)

産業の源 電子回路技術を 継承して不滅の日 本を支える



Kunio Yoshida

Profile

【学歴】早稲田大学大学院理工学研究科(電子工学)

【スキル】アナログ回路設計

【資格】第一種情報処理技術者

【職歴】パナソニック(株) グローリー(株)

画像処理技術

吉田 邦夫

Engineer

トランジスタの発明と同じ年に生を受けたせいで(と無邪気に信じている)、幼少より小さな電子回路に興味があり、遂にはこれで飯を食うことを決意して大学では電子通信学科に進学。

松下電器に就職し、当時川崎にあった研究所で、計算機の画像の解析と処理のアルゴリズム開発、のみならずそのツールとなるハードウェアや計算機インタフェースの設計試作などを担当し、広範囲なシステム開発の職務を経験。当時の上司で国立大学の教授に転じられたK先生から、カラー画像解析と画像再現手法の薫陶を受けた。後年貨幣処理装置のトップメーカーの研究開発センターに転じ、自動認識技術と画像処理技術の応用で貢献した。

ウィッツェルに入社後、30年以上にわたる経験を生かして電子回路の設計業務を再開。日々ますますの精進に励んでいる。



テクニカルキャリア

1971年4月～2002年3月

パナソニック(株)

画像処理システムの研究開発
色識別装置、印写装置などの研究開発
使用ツール

ミニコン、マイコン、アセンブラ、Fortran C
高機能家電制御方式開発
ニューラルネットワーク、ファジィ理論など、
最先端技術の家電制御応用を実現

2002年4月～2007年3月

グローリー(株)

研究開発センター
センター長として、貨幣処理、生態認証などの
研究開発と実用化を指揮
知財訴訟の技術サポート
米国企業との特許係争において、米国の法廷に
提出する資料の作成、弁護士との折衝、証人候
補への教育などを担当

2007年10月～

ウィッツェル(株)

受託開発部門
医用電子装置、コンシューマ装置などの開発
受託システムの設計支援、解析
技術者教育
社内技術者の設計技術教育、新入社員教育

ソフトウェア開発で 人に優しいコンピュータを 提供する



Toshiaki Chai

Profile

- 【学歴】 東京電機大学工学部一部電気工学科
- 【スキル】 ソフトウェア開発
- 【資格】 第一種情報処理技術者
- 【職歴】 (株) ビデオシステム研究所
(株) キャディックス
日本サイバーサイン(株)

ソフトウェア開発

茶 位 利 昭

Engineer

自宅から秋葉原が近かったので、小学生の頃から通っていた。10円20円で電子部品を買いLEDを光らせていたが、高校の時Z80でマイコンを組み立て、ソフトでLEDを光らせてからソフトウェアにのめり込んだ。オープンしたての地元のパソコンショップに自作のゲームを持ち込んだりもした。格別、興味があるのは「ユーザーインターフェイス」だ。これまで電子ペンを使ったソリューションを数多く手がけてきたが、最終的には「指」や「目」でコンピュータを動かしたいと考えている。小学校の卒業文集には、将来は電気屋さんになりたい、と書いた。その夢はどこかでまだ持ち続けている。電気屋さんと言うより今ならパソコンショップであろうか。多くの人にパソコンを使ってもらいたい、喜んでもらいたい、と思っていた単純な気持ちが、より自由で使いやすい人に優しいシステムを追求する仕事に、つながっているのかもしれない、と思っている。



テクニカルキャリア

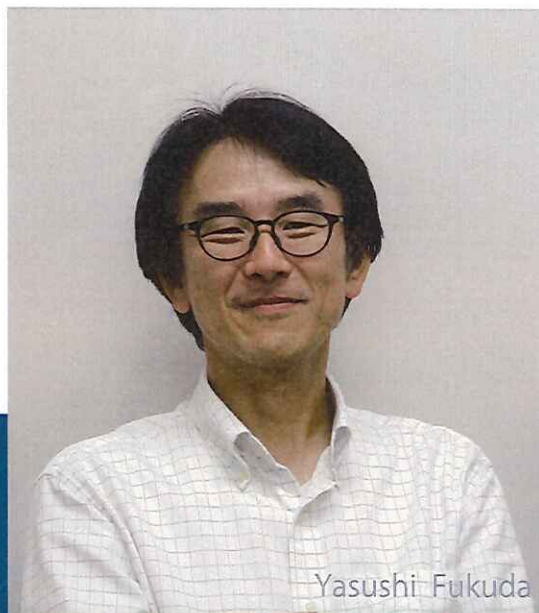
1983年4月～1986年5月
(株) ビデオシステム研究所
大学卒業と同時にソフトウェア制作会社設立に参画、開発者は自分ひとりだったが、幅広いオリジナルソフトを開発歯科医療事務システムを開発する時には、多くの女性に混じり男性1人で医療事務学校に通った

1986年6月～2000年3月
(株) キャディックス
システム開発部長
本社R&D部門にて電気回路設計電気基板設計CADシステム等を開発
ハワイのマウイR&Dにて、サイン照合システムの研究開発も行う(約1年半)

2000年4月～2006年8月
日本サイバーサイン(株)
代表取締役社長
ネットワーク対応サイン認証システムのアプリケーション開発
各種業界団体・バイオメトリクス個人認証精度評価法のJIS化委員への参加、サイン認証技術に関する専門誌等への執筆活動

2004年～
ウィットセル(株) 執行役員
ウィットセル・カレッジ(株) 取締役
システム開発部門にて、ソフトウェア開発技術者のスキルアップや、自社プロダクトの開発指揮を執る

コンピュータシステムの
ハードウェアおよび
ソフトウェア開発のスキルが強み



Yasushi Fukuda

Profile

- 【学歴】日本大学大学院理工学研究科電気工学専攻
- 【スキル】デジタル回路設計・プログラミング・画像処理
リアルタイムシステム・並列化プログラミング
- 【職歴】日本電気(株)
(株)ソニー木原研究所
ソニー(株)

デジタル回路設計 / プログラミング / 画像処理

福田 安志

Engineer

幼少期からいろんなことに興味を持ち、いまでも多趣味な日常をすごしています。コンピュータは小学校4年生の夏休みの宿題で、電光掲示板つきの野球盤を製作したときに出会いました。センサーを使ってボール・ストライク・アウトを自動でカウントする回路を設計したときに、ランナーの進塁だけがうまく回路化できなかったことからコンピュータシステムの利用を考えるようになりました。それ以来、ろくに学校の勉強もせず毎日回路の設計やマシン語のプログラミングやりに勤しんでいましたが、まさかこの頃のスキルが自分の生涯の仕事になるとは思いもよりませんでした。



テクニカルキャリア

1987年～1990年

日本電気(株)
PC - 9801パソコン本体、オプション
ボード等ハードウェア開発に従事。

1991年～2003年

(株)ソニー木原研究所
コーンビームCT、電磁界シミュレータ
など大規模高速計算用途向け並列
コンピュータシステムの開発、自然言語
処理など機械学習に関する研究、
サテライトシステム(磁気テープ記録
装置)などリアルタイムシステムの
開発、高速検索エンジン(FPGA試作)
等インターネット技術に関する研究に
従事。

2003年～2016年

ソニー(株)
モバイル向け低消費・超並列プロセッサ
のLSI開発(国際会議ISSCC2008論文
投稿)
メニーコアSoC向け共有メモリ、および
上流設計手法に関する技術開発、
監視カメラ、ステレオカメラ向け画像
認識ソフトウェア開発、医療用X線
撮像装置の開発。

2016年～

ウィッツェル(株)
要素技術の研究開発をはじめ、画像
処理技術を用いた自社製品の開発
に従事。

ものづくりの立国 一燈をともし



Kazuyuki Imaeda

Profile

- 【学歴】 早稲田大学工学部機械工学科(自動制御専攻)
英国ウェールズ大学応用科学部
- 【スキル】 機械設備設計
- 【資格】 中小企業診断士(経産省登録)、英語検定準1級
ものづくり大学非常勤講師(2004年~現在)
- 【職歴】 ソニー(株)

製造業務改革コンサルティング

今 枝 計之 Engineer



復活を目指していた英国の教育現場から新産業革命を担う日本の電子機器メーカーソニーに就職を決めた。
ロボット技術を活かす生産技術に従事し、国内外の事業所の高度化に取り組み、その後は、ロボット技術を組み込んだFA技術の事業化を進め、欧米のエレクトロニクス企業の生産合理化の支援から、投資の重要性を学んだ。精密部品事業の拠点作りをシンガポールに設立するプロジェクトを担当。東南アジア圏へ進出したグローバル企業へ部品・FA機器の拡販を通して現地製造業への理解を深めた。次に米国では、FA事業拠点設置と事業拡大に集中し、売上拡大に貢献した。更に、最先端の薄膜技術を有する米国企業の買収、半導体デバイスメーカーへの装置拡販を行った。続いて、同事業の企業売却、清算処理まで国内マネジメントをした。

テクニカルキャリア

1972年 4月~1985年12月

ソニー(株)

カラーテレビ用ブラウン管生産技術開発
ブラウン管プロセス装置の開発設計
ブラウン管米国工場建設・設備導入
カラーテレビ組立ライン設計・設備導入
国内・海外生産ライン設計・設備導入
ビデオ・カメラ・磁気製品製造用装置、プリント基板
自挿・実装装置の開発設計・設備導入

1986年1月~1998年3月 ソニー関連会社

在シンガポール精密部品会社
企画・設立・運営・欧州への事業移転
東南アジア圏でのFA事業展開
米国FA事業拠点設置・運営・拡販
コンピュータ・カメラ・OA機器
・自動車部品メーカーの製造合理化の支援活動
米国買収と薄膜装置事業拡大
ディスク用薄膜装置開発設計・製造
半導体用PVD/CVD薄膜装置設計・拡販

2005年 4月~

ウィッツェル(株)

光配線接続機器の在庫削減、写真現像装置
・自動販売機部品・薬品製造の現場改善
技術調査半導体事業再編、ヘムト秒レーザー応用・
有機EL製造装置・自動車用電池・薬品・食品
などの事業診断・評価

技術で社会貢献



Yutaka Mori

流体、熱工学、燃料電池技術



森 豊

Engineer

Profile

- 【学歴】 早稲田大学理工学部機械工学科
九州大学工学研究院動力機械工学専攻
- 【スキル】 技術基盤：流体工学、熱工学
- 【資格】 エネルギー管理士（熱）、工学博士
技術士（機械部門、動力エネルギー）
- 【職歴】 (株) 荏原製作所

2008年の夏まで、機械メーカーで32年間にわたり第一線の機械技術者として設計と開発を実践してきました。技術基盤は流体工学と熱工学ですが、この間、流体機械装置の設計、油圧駆動スノーマシンの設計、水/アンモニア混合物を使用した発電プラントの開発、消化ガスや副生水素を燃料とした燃料電池アプリケーションシステムの開発、そして家庭用燃料電池の商用化といった、いろいろな新しい仕事を担当してきました。ウィットセルでは技術調査やコンサルタントの仕事から、機械設計までいろいろな仕事があるので、オールラウンドな対応力を活かしています。仕事を進める上では「仕事を楽しむ」「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」「現場主義」をモットーとしています。仕事をやるからには、ただ漫然とやるのではなく、社会に貢献するという使命感をもって仕事を進められたらいいな、と思っています。

テクニカルキャリア

1976年 4月～2008年7月
(株) 荏原製作所

各流体機械装置、環境試験装置の計画・設計
ごみ発電プラントの開発、設計、実証試験
燃料電池アプリケーションシステムの開発、設計
家庭用燃料電池コージェネレーションシステムの商用化

2008年8月～

ウィットセル(株)
電池関連技術調査
環境装置コストダウンプロジェクト
医療機器開発プロジェクト

2005年～

芝浦工業大学MOT 特別講師

2009年～

横浜国立大学工学部生産工学科
東京都市大学工学部生体医工学科非常勤講師

人が喜ぶことをやって
自分も楽しい人生



Atsushi Matsuzaki

Profile

【学歴】名古屋工業大学工学部電子工学科

【スキル】アナログ回路設計、EMC

【資格】技術士(電気電子部門)

【職歴】ソニー(株)

アナログ/EMC技術

松崎 敦志

Engineer



小学校5年生の正月、お年玉で買ったゲルマニウムラジオでこの道に踏み込みました。バーアンテナ、ポリバリコン、ゲルマニウムダイオード、クリスタルイヤホンのたった4つの部品を半田付けし、ポリバリコンを回して行き、ラジオ第一放送がイヤホンから始めて聞こえた感動は、半世紀たった今も忘れていません。一つの機能しか果たさないものを組み合わせ、さらに高機能なものを作り出す、その面白さに惹かれ、全力で商品開発・設計に携わってきまし担当した商品はオープンリールテープデッキ、SECAM方式ビデオデコーダIC、特殊ブラウン管テレビ、プロジェクタ、ポータブルビデオプレーヤーです。その中で身につけたアナログ技術、電磁輻射対策技術をベースに、国家資格である技術士資格を取得し、ウィッツェルと松崎技術士事務所の2足のわらじで、若人と一緒に設計をしています。

テクニカルキャリア

1970年～2004年

ソニー(株)

テープデッキ電気設計

カラーテレビ信号処理IC開発:特許出願

CRTプロジェクタ設計:商品化過程

プロジェクタ事業部運営:事業運営経験

DLPプロジェクタ商品化:技術士取得

ポータブルビデオプレーヤー開発:特許出願

⇒機構設計はウィッツェル(株)

2004年～

松崎技術士事務所

ベッドサイドテレビ開発

ラジコンカーレースゲーム開発

EMC講師

ベッドサイドプロジェクタの開発:特許出願

2005年～

ウィッツェル(株)

電気電子部品技術調査

(IC、ディスクリート半導体、一般電子部品等)

回路技術調査(デジタル/アナログ、パワー系)

特許調査

家庭用医療機器の設計構想:特許出願

医療機器補助装置設計構想

大気圧プラズマ装置の事業化検討

医療機器補助装置の回路設計

電子式銀塩写真印刷機コストダウン

企業は人なり、やる事決めたら
その道のエキスパートとして
常に一つ上を目差す

Profile

【学歴】国立松江高専 電気工学科

【資格】パワー回路設計、商品電気設計

【職歴】ソニー(株)ローム(株)

ウィッツェル(株)技術顧問(現在)



Yukio Osaka

商品化プロデューサー

大坂 幸夫

Engineer



デジタル・ネットワーク領域での重要な要素である受信・ディスプレイ関連技術の習得と商品化までの一連の活動、海外技術オペレーションの運営、デジタル家電商品の事業経営、更にはLSI商品戦略策定など、こうした経験を通して多くの方々と知り合い、学ぶ機会を得られたことが財産となりました。

テクニカルキャリア

1969年～1987年 ソニー(株)TV事業本部
カラーTVの偏向・電源回路設計からスタートし、欧州向けTVの基本シャーシ及び商品化設計に従事。
1987年～1996年 ソニードイツ、GmbH
ドイツにてTV欧州設計拠点のセットアップ及び運営を担当。
フリッカーフリー、デジタル放送対応受信機の商品化に貢献。またPALplusの規格策定に参画。
画期的な欧州統一の標準シャーシ開発をPLとしてまとめた。
1996年～2009年 ソニー(株)
デジタルSTB事業統括。
在任中、デジタル放送における日・米・欧・中の各規格に対応した受信システムの開発、シリコンチューナー導入PJを主導した。
またPLC、DVB-2/ATSC-2等の規格策定に参画した。

2009年～2014年
ローム(株)
アプリケーションから見たLSI開発及び海外事業拡大に関する戦略策定と、実行AC/DC等新規カテゴリーLSI事業参入活動に注力した。

2015年～
ウィッツェル(株)
半導体前工程工場改善
半導体後工程工場改善
半導体開発プロセス改善
電子部品調査

スマートな電動力応用で エネルギー問題 解決に貢献



Hiroshi Nagase

Profile

【学歴】北海道大学大学院工学研究科電気工学専攻(修士)

【資格】工学博士

電気学会IEEJプロフェッショナル

【職歴】(株)日立製作所・アイダエンジニアリング(株)

工学院大学工学部電気工学科 非常勤講師

ウィットツェル(株)



電動力応用技術

長瀬 博

Engineer

小学生のときに電車が動く仕組みを知り、モータ応用製品に興味を持った。大学入学後、その分野の研究室に進んだ。世の中に出た後は「モータをいかにうまく回すか」の研究開発を長い間、行っている。日立入社当時は、マイコンもなく、大電力を扱うことができるパワー素子も無かったので、苦労が多かった。40年後の現在は、理論の発達とともに、高性能マイコン、大容量パワー素子、そして有効な開発ツールが当たり前の時代になり、隔世の感がある。しかし、苦労の多い時代の方が工夫代があったのも事実である。研究/開発部門にいたため、400件近い特許出願数があるのはメーカー開発者の特徴である。長年、この分野で仕事をしてきたことが、世に少しでもお役にたてたらと考えている。



テクニカルキャリア

1973年～2006年 (株)日立製作所

研究所に勤務し、交流モータの可変速駆動方式の開発に従事。世界初の鉄鋼用圧延主機の交流モータ駆動を世に送り出した。その後、交流モータのトルクを高速高精度に操る制御方式開発に従事。この成果は、白物家電、サーボモータ、ポンプやファン駆動、自動車、エレベータ、鉄道車両、鉄鋼圧延駆動など日立の多くのモータ駆動製品に取り入れられた。そして、エレベータ事業部門に移り、新方式エレベータの開発を担当。機械室のないエレベータの実現はその成果の一つである。

2006年～2013年 アイダエンジニアリング(株)

プレス機械専門メーカーとしては国内トップの会社に転職。自動車ボディ加工に使う大型のサーボプレス機械の開発を主に担当。大型プレス専用モータおよび制御駆動システムを開発。このクラスで世界初のサーボモータ駆動プレスラインを完成させ、自動車会社に納入。

プラスチック製品の
設計段階から
量産化までの
一貫したフォロー



Hirohumi Tateyama

Profile

【学歴】山形大学大学院理工学研究科（物理生産工学）

【スキル】プラスチック加工

【資格】工学博士

【職歴】ムネカタ（株）



加工成型技術 材料技術

館 山 弘文 Engineer



長年プラスチック加工の関連会社で、プラスチック製品の高精度化・高機能化あるいは高付加価値化のための、研究開発および実用化の業務に従事した。

テクニカルキャリア

1971年1月～2008年3月

ムネカタ（株）

プラスチック成形加工理論
プラスチック加工法の開発
プラスチック材料の開発・改良
プラスチック金型の設計および加工法の開発
プラスチック成形機および周辺システムの開発
二次加工（加飾・接着等）の加工法および材料開発
CAE等による評価/最適化や開発等

2008年5月～

ウィッツェル（株）

新規プラスチック製品開発の支援、
新規のプラスチックプロセッシングや材料の調査支援
製造業務改善コンサルティング